

小石川フィロソフィー I (令和3年度)

1. 目的

1学年においては、今後の研究活動の基盤となる言語能力の習得を第一の目標とする。研究活動の基盤となる言語能力とは、他者の意見を正確に理解する力、身の回りの事象を的確に捉える力、更に自分の考えを客観的に整理し、相手に理解してもらえるよう論理的に表現する力のことである。これらの言語能力の向上を目的とし、「話す・聞く」「読む」「書く」「言語事項」の各分野において様々な活動を行った。

殊に現代においては、知識の修得そのものよりも知識を活用させる技術や、他者と協同して物事を解決しようとする姿勢が肝要となる。個別の活動だけではなく、班活動や話し合いの場を意図的・計画的に多く設けることで、今後社会に出て役立つ力を身につけさせることを目的とした。

2 概要

1学期は、新型コロナウイルス感染予防の観点よりグループワークを避けながらも、「話す・聞く」の活動が取り入れられるよう工夫した。新聞を活用した課題を行った。

2学期は、複数の思考整理法や、意見が異なる相手との対話方法など、汎用的な言語能力を身に付けることを目的とした。

3学期は、SDGsの諸問題をテーマに据えて研究活動を行い、簡易的な論文を作成、それを基にスピーチを行うことを主な活動とした。研究論文の基本的な構成を学ぶと共に、これまでに学習した内容を必要に応じて適切に活用する力を身に付けることを目標とした。

表1 年間指導計画

4月	ガイダンス
5月～6月	研究活動に必要な言語能力～ 新聞スクラップノート 記事要約、意見文、他者へのインタビュー 新聞～新聞について学び・作成する 紙面の基本的な仕組み、役割
7月～8月	「一緒に読もう新聞コンクール」 (※夏季課題)

9月～10月	図形の説明～言葉のみで説明する技術～ 分かりやすい説明、論理的な説明の仕方 聞き取り、評価、再話～聞き取る力、書く力～
10月～11月	絵画の読み取り～思考整理法①～ KJ法を用いて絵の読解 客観と主観、トゥールミンモデル(論理的な読解) 意見を深める～思考整理法②～ 二項対立問題についてパタフライチャート、フラワースートの活用 譲歩構文で意見文を書く ・ミニディベート
11月～1月	スピーチ(論文)テーマを考える～思考整理法③～ SDGsに関してマインドマップの活用
2月	ミニ研究論文 論文の作成 ・スピーチ原稿作成
3月	学年スピーチコンテスト実施 年間の振り返り・自己評価

3 成果と課題

今年度の大きな目標として、言語能力を高められるよう努めた。各課題に対して、始めは一人で取り組み、その後複数で話し合い、再度自分で振り返るといった流れで活動を行った。生徒の振り返りの記述を見ると、「他者の意見を聞いて考えが深まった」「そういう考えもあるのだと思った」「相手に正確に伝えるには、説明の順序が大事だと学んだ」など、学習活動から視野の広がりや自身の考えの深まり、論理的に説明する力の重要性を実感していた。そして、学んだことを積極的に活用しようとする姿勢も多く見られた。繰り返すこのような活動を行うことで、課題に対し自分の意見を深め、まとめ、論理的に発表するという基礎・基本の力は身に付いたと考えられる。「国語 A・B」とも関連させながら授業を展開することで、思考整理法や論文の書き方など、本授業で身に付けた力が、他の授業でも活用できることを体感した生徒も多かった。汎用的な言語能力を身に付けることが、あらゆる場面において役立つということを指導できた。